

平成19年度第1回「安全・安心・すこやか部会」摘録

開催日時 平成19年4月19日(木) 午後6時00～8時00分

会場 幸区役所第一会議室

参加委員

専門部会 A 委員：手塚善雄部会長、末兼卓副部会長、青山一、荒井康男、
小林豊、綱川幸子、萩原保夫、葉山直次、安岡信一

事務局（総務企画課）：高橋主幹、北村主査、小出職員、吉田職員、

次第

1. 報告事項

○第6回専門部会（3月5日開催）の報告

2. 議題

1. 「健康で生きがいをもてる地域づくり」について
2. その他

1. 開 会

本会議の情報公開に関する確認。

事務局 異動職員の紹介

次第、配布資料の確認。

2. 検討事項

（1）健康維持と増進の取組について

（手塚部会長）

では、視察場所について検討していきたいと思いますが、まずは事務局から説明をお願いします。

（事務局）

（資料に基づき説明）

（手塚部会長）

前回の話し合いの中で、視察をしてどんな活動をしているか実際に見てきて参考に検討することになった。

地域の自主活動グループの中でどんな所へ視察したらよいか。資料2には、4つの会が出ているが裏面にも自主グループ一覧がある、ほかによいものがあれば、この中からも選びたいと思う。

健康づくりのための自主的なグループの活動を、参加できる方が何人かで視察に行く。何ヶ所かを見てきて、その結果について部会で報告する。次の部会の前に視察を実施する。

次の全体会議が5月の下旬から6月上旬の予定。次の専門部会は5月中旬なので、その前に視察を何ヶ所か行いたい、意見がありますか。

(小林委員)

5月中旬までだと日程的に厳しいですね。

(手塚部会長)

次の専門部会は、5月中旬くらいになると思いますが、いつごろになりますか。それによって、視察の日程が変わりますね。

(事務局)

次回の区民会議が、5月23日以降、6月上旬ぐらいまでで日程調整を行いたいと思いますので、部会は5月14日の週ぐらいにお願いしたい。

(手塚部会長)

日吉のウォーキングの会は、5月17日ですね。そうなる、と厳しいですね。

(末兼副部会長)

こちらで見てきて、部会を開いて報告してから区民会議に挙げていかないといけない。事務局もあまり日にちがないと資料がまとめきれないでしょう。そうすると、専門部会は15日の週ぐらいがいいのではないかと。

4つの中から視察が、可能なのはどれで、なかったら一覧表の中から探す。5月15日までに日吉のウォーキングの会の活動があれば、行ける人は見に行く。

(小林委員)

ラゾーナで行われたアンケートの結果をみたが、「高齢者の健康づくり」をする場所の情報がほしいという声があった。みなさん、活動場所を求めているわけですね。

(葉山委員)

5月15日以前に視察が可能で、高齢者を対象にした体力づくりをする場所を提供するというのを考えて選んでもらう。その点では、この4つの中では、調理実習をする会は、あまり視察に向かないのではないかと。

(事務局)

日程的には、5月の第2週だと視察の都合によくて、日吉のウォーキングの会は第3週の他に近くの月曜日となっていて、いつなのか分からない。都合の良い方を見せてもらうことでいかがでしょう。

各グループが他の団体とどのような取組を持ちたいと考えているのか。どのような形で横の繋がりを求めているのかなど、視察のポイントを確認してほしい。

多くの人に参加してもらうためには、どうすればよいのか。自分達の活動・取組が広がるためには、どういう情報がほしいと考えているのかなどは、共通の課題では。

生の声を確認できる場として視察して、検討に活かしていく。

(荒井委員)

漫然と視察するのではなく、チェックポイントを設けていくわけですね。それに視察した委員の感想を加えるのがいいと思う。

(手塚委員)

視察のポイントを明確にする必要がある。地域では健康づくりのこういう活動がありますよということを情報として出すために視察する。

(荒井委員)

視察の目的は、こういう団体が、こういう場所で活動しているということを区民に情報として発信するのが目的。団体を評価するのではなくて、区民一般に発信することが目的だと思う。

アンケートでは活動の場所が知りたいという要望が強い。場所の要素を調べるのが大事だと思う。

(小林委員)

活動する上で場所がないので、場所を知らせてもらいたいという事ことと、場所を作ってもらいたいということでは。

(末兼副部長)

それにプラスして、健康づくりをどう組み合わせるのかということですね。歴史の散策ウォーキングと健康づくりのウォーキングを連携させるような、こういう活動を区民会議に提案する必要があるのではないかと。また、まちづくり推進委員会でも歴史散策ウォーキングみたいなものを行っているので、こういうのをどう活かしていくかなど。

(青山委員)

日吉地区に郷土史の研究会というのがあって、毎月やっている。こういうのも健康づくりの一つの方法だと思う。幸区外や横浜市からも来ている。自分たちで行って、見て歩いている。

(末兼副部長)

健康づくりのためにこういうことをやっていると言っていると情報発信すると皆さんが参加できる。よい取組を広めるのも区民会議の目的ではないか。

そのために、どのように情報収集をしてやっていけばいいのか。個々のスケジュールを集めて、お知らせするのは区民会議ではなく、事務局にやってもらう。区民会議としては、こういう方向にもっていくということをまとめていければいいと思う。

(手塚部長)

どういう目的で視察するか。どういう事を要望として出したらよいかをまず決める必要がある。色々な活動があるが、こういうことを他の地域でもどんどんやらせてもらえたらというような考え方でいいと思うがどうでしょう。

(荒井委員)

今ある組織・団体を活用しようということが最初の話だったので、新たに団体を作るのは、次の段階だと思う。視察のチェックポイントとしては、営利目的ではないか、資料にある活動内容通りにやっているかなどの確認をしたらどうか。

(手塚部長)

既にかかなりの人数がいるようなところは視察してもあまり意味がないようにも思う。今、募集人数が×印になっている(募集していない)ところを取り上げて調べてみたらどうか。そして、それを地域で始めてもらうのがよい。

(末兼副部長)

今やっていることでここが困っているとか、取組の輪を広げていくための提言を行う。幸区には、高齢者人口が2万人くらいいる。今やっている事を大きく広げて行くことが会議の目的で、身近な地域に取り組みの場所が必要だと思う。ここに取組める場所があるということを区民会議から発信してあげる。

(綱川委員)

活動の実態を見て確認し、皆さんに情報を発信し大きく広げることは大切だと思う。踏み込んでバラバラなものを一つになってほしいとか、大きく広げて欲しいという気持ちはあるが、たいへん難しいと思う。

(末兼副部長)

視察に行って、ネットワークを広げていけばよいというなどの提案をしたとき、老人クラブでも、それを持ち帰ってこういうことがあるとミーティングしてもらえればよい。

(手塚部長)

特定の場所を集中してやることはできない。いいことは、いろんな地域で始めてみませんかという呼び掛けができる。それをやるべきだと思う。

(末兼副部長)

視察は10分で終わりということではなく、活動の最初から最後までを視察する必要がありますね。

(葉山委員)

課題とか問題点について質問して、それを討議の材料にしたらいいですね。

視察の担当を決めた。

(2) 「健康づくり・要介護予防の情報発信」について

(手塚部長)

高齢者の方がどのような情報を必要としているか。先程のアンケートの結果が出ているが、そういったことを考えに入れて議論したいと思う。どうでしょうか。

(末兼副部長)

荒井先生に話をリードしてもらいたい。健康づくりについて、間違った知識をもっている人もいるが、それをどういうふうに関係発信して、我々がバックアップできるのか。それを教えてもらいたい。

(荒井委員)

具体的にどういう方法でやるのかだと思う。講演会をやるのか、パネルディスカッションをやるのか。方法はいろいろある。

(末兼副部長)

健康づくりということで、ダンスやウォーキングとかいろいろやっている。しかし、ランニング等していても身体が弱っていたら、転んでしまうと逆にケガをしてしまう。だから、ストレッチするとか修正する形で情報発信してもらおう。そのやり方を老人会なり、民生委員児童委員協議会などの活動の中で一つずつ落とし込んで、ネットワークを作っていく方が良い。

(荒井委員)

区内の高齢者から何を求められているのか一番知りたい。幸区の65歳以上の方がどういう健康状態なのか。健康障害があるところをやるか、(幸区医師会の講演では)今までは与えられたテーマでやっていたが、区民の方や組織・団体からこういうことをやってほしいという要望があれば、できるだけそれはやろうという考えがあるし、そういう声が出ている。

あとは、それを具体的にどういうやり方でやるか。老人会等に行って、主催してもらってやるのか。一方的にこういう風にやるというのではなくて、希望する声に応じたい。

(末兼副部長)

老人会とか、団体からこういうことをやってほしいというテーマをもらって、それを元に区民会議で検討する形でどうか。

(荒井委員)

相談という形でも良い。

(手塚部長)

アンケート結果として、「運動や体力づくりに関する情報」が最も多かった。こういうものは、役所の各担当部署で情報発信をやってもらう方が適切だと思う。

(荒井委員)

老人保健法というのがあって、これに基づいた行政での講演会が来年なくなると聞いているが。

(事務局)

まだ、分かりませんが、健康増進法による保健事業になるようです。

(荒井委員)

名前を変えて継続されるのですか。

(事務局)

まだ、案の段階だと思う。

(荒井委員)

老人保健法というのが、来年 3 月いっぱい廃止になる。名前を変えて継続されるかもしれない状態にある。今あるテーマというのは、行政全体がそうですが、介護になってしまった人を対象というよりは、介護以前が対象。まだ、元気うちに、ずっと元気な状態を生涯続けて欲しい。そういった介護予防に主題が向けられている。元気な人を対象にしている。

こういう要望が多いのですよという意見があれば、私達で考えて、ここで提示したい。

(末兼副部長)

このアンケート以外に、高齢者が要介護にならないために、どういことを求めているのか。食事で求めているのか、運動で求めているのか。そういうことを調査して、この部会で集めて、区民会議に提案していく。

(綱川委員)

こういう講座がありますよという情報をもて出ない方に来てほしい。いつも出てこられる方は同じ顔ぶれ。出ない方は、なかなか出ない、なるべく多くの方に話を聞いてほしい。

(手塚部長)

そういう意味では、このアンケートは、いつも出てくる方達の考え方だと思う。でも、これも納得いく結果になっていると思う。

これについて、私達がどのように情報を出すのかは、行政の担当部署でまとめていただくしかないと思う。

(末兼副部長)

市でやっていることではなく、区民会議では、もう少し大きな形のものを検討していく必要がある。

(荒井委員)

いつも決まった方達ばかり出てくるという話であれば、会場を、ある時は日吉、ある時は「老

人いこいの家」を使うとか変える。前回みたいにラゾーナ川崎プラザソルだと、出てこられる人達が限られるけれど、「老人いこいの家」とかでやれば、今まで出てこられなかった人達も集まるだろう。

同じテーマを巡回する形をとるのも1つの方法ではないか。それによって、今まで集まってこられなかった人達も参加するのではないか。老人保健法のテーマで集まる人数が少なく、狭いところで、人数を限ってやっている。テーマも今年はこれで、来年はこれというように、あるいは、テーマを複数にする。行政が主体になるので、予算のからみもある。

(末兼副部長)

それは行政と具体的につめてもらうとして、区民会議という形では、各団体の人が集まっている会なので、もう少しステップアップしてというか、大きな観点から検討していくのがベター。そうすれば、みんなでバックアップすることができる。

(綱川委員)

前回のラゾーナの講演会には出席できなかったが、周りからは、評判が良かった。老人会で講座を開くときは、どんな講座を開いて、どんなお話を聞かせてもらいたいかを聞いてやるようにしています。

(末兼副部長)

老人会でも色々な話が出ていると思うが、その情報を流してもらって、民生委員児童委員協議会からも情報をもorrowて、それをまとめていけるといい。

(萩原委員)

地域の中で一ヶ所ではなくて、区役所だけを拠点として、点在して(講演会を)やっていくのは大切なことだと思う。介護保険の時は住民懇談会をするにあたって、住民の主催でできなかった。住民の声を聞くことができなかった。介護保険導入から7年が立ち、福祉計画も第2期目に入る。地域の声をもう一回聞いて、どう住民を参加させるのか、細かく住民懇談会をやるのか、テーマ別に又は、同じテーマでも良い。住民がどう参加できるのか、住民の参加人数をどう増やしていくのか、区民会議の中で意見交換をしながらやっていくことが求められていると思う。そのためには、住民との接点とどうもっていくのが重要になってくる。

(荒井委員)

我々(医師)は病気の人を見ているので、病気でない人達が何を求めているのか。間違っているかもしれないし、正しいかもしれないが、間違っていることは、正しい知識をもってもらいたい。

(萩原委員)

介護や病気などで出てこない人、出られない人について、なぜそういう状態なのか、検討してみたい。それには、同じテーマで会場を変えて開くことが重要だと思う。

(末兼副部長)

今、言われた形で意見を要約していかなければならない。出てこられない方達の意見をどのように集約していくのか。区民会議として、健康な人達が何を求めているのか把握するためにはどうすればいいのか考える必要があるが、それは難しい。だから個々の団体があるので、その団体での意見を取上げて、どういふうに情報発信をしていくのかを検討していく。

そして、その結果を各団体、各地区に落とし込んでいくのは行政の役割。

(手塚部長)

出てこられなかった人達が、どういう様な事を求めているのかを把握するのは、大変な事だと思う。どんな活動でも、出てくる人、出てこない人がありますが、結局は出てくる人達が積極的な考えを持って出ているので、その人達の考えを大事にしていく。出てこない人達の考えを何とか掴みたいと思うのも大事な事だと思いますが。

以前、社協の関係で県の大会があって、報告をした時に会食会に出てこない人達はどのようなのですかと聞かれたことがあった。そこまでなかなか手を伸ばせないと答えました。参加していない人達の考えを言うことはできない。参加した人達のアンケートで出した結果を大事にしていくことでいいと思う。

(綱川委員)

出てくる人達にお話を聞いてもらう。私達がやっているような老人クラブは、ご近所の人達でやっているの、会に参加した方達が、何かの折りにこんな話があると云ってくればよい。

(萩原委員)

このアンケートである程度答えは出ていますね。

(荒井委員)

健康づくり・体力づくりにどういうことをやるかは、持ち帰って考えたい。

(葉山委員)

必要な情報をどういう風に発信するか。区民は、どういう情報を必要としているかということですよ。そうことを考えたときに、出てこない、何かやるときに参加されないがいるが、同一

テーマ、ウォーキングならウォーキングに絞って、それぞれの場所を変えてどんどん実行すればいいのではという意見が荒井委員からあった。

たとえば、ウォーキングの場合、誰かまとめている人が今回は、市でやるという情報を発信して、例えば「日吉あゆみの会」を全体的な「幸区あゆみの会」というような名称に変えて、それをどこの地区でいつやりますという形にして、この会として情報発信できればよいのではないか。

参加の人数は別にして、イニシアティブを取れる指導者を、たとえば健康増進教室修了者のような人を選んで地域地域でウォーキングをする。それに伴って、医師会からテーマを決めて講演してもらうなどですね。

(末兼副部長)

我々は実行するのではなく、その提案をどのようにまとめるのかという役割ですね。

(葉山委員)

そういう課題を投げかけて、それぞれの団体の人に検討してもらって実行してもらう。

(手塚部長)

ウォーキングに絞って、地域ぐるみで活動を展開する方向でもっていくといいですね。

(萩原委員)

方向性がだんだんと見えてきましたね。

(荒井委員)

参加しない理由はいろいろあるだろうけど、一ヶ所でやるよりも地域ごとでやる方が、参加者が多くなるという期待がある。

(手塚部長)

今回、ウォーキングを取り上げて、これを中心に地域ぐるみで活動していくような方向を提言していく。

(末兼副部長)

歩きを1時間で、講演会30分と歴史を勉強する。名所・旧跡を歩きながら見る。2時間半くらいでできるという形で。

(手塚部会長)

どんな形でウォーキングに取り組むか。高齢者の健康づくりをどのように情報発信するかを検討していく。

(事務局)

日吉のウォーキングの会は、ここに書いてあるとおり、季節に合わせた目的地を選び景色を楽しみながらウォーキングということで、昔は、日吉のエリアを歩いていたそうなのですが、歩ききったということ。県外へ出かけている。5月は、千葉に行かれるそうで、想定していたのとちよっと違うかもしれません。

(葉山委員)

ウォーキング会を開催するときにはリーダーが必要。役所の方で適当なリーダーがいたら、推薦してもらって中心に動いてもらう。

(末兼副部会長)

まちづくり推進委員会をやっている方に主体になってやってもらって、医師会や老人会などと一緒に情報を発信してもらうのはどうでしょうかね。

3. その他

次の専門部会は、5月16日(水) 午後6時～ プレハブ会議室